

- 1 『富嶽三十六景』を描いた、江戸時代を代表する浮世絵師は誰？

- 2 江戸時代、幕府から営業の独占権を得た代わりに税を支払った、商人の同業者組織を何という？

- 3 錦絵の技術を用いて、『富嶽三十六景』などの優れた風景画を描いた人物は誰？

- 4 1637年に島原・天草一揆の首領となった人物は誰？

- 5 東海道をはじめとする五街道の起点とされ、江戸の交通の中心地であった場所を何という？

- 6 江戸幕府が鎖国政策のもと、長崎に設置した貿易管理のための人工島を何という？

- 7 江戸時代にオランダ船の来航が許された、日本で唯一の貿易港はどこ？

- 8 18世紀末から19世紀にかけて、日本近海にたびたび現れて江戸幕府に警戒された国のうち、ロシア以外の国はどこ？

- 9 江戸時代の農業において、都市の排泄物を肥料として再利用したものを何という？

- 10 江戸時代中期、商業の発展を利用して幕府の財政を立て直そうと、株仲間を積極的に奨励した老中は誰？

- 11 江戸時代、農具の改良や肥料の普及により高まった、単位面積あたりの収穫量を指す言葉を何という？

- 12 飢饉や米価の高騰に対し、都市の貧しい人々が米屋や商人を襲撃した行為を何という？

- 13 江戸時代、外国や異民族との窓口とされた「四つの口」のうち、オランダや中国との貿易が行われた場所はどこ？

- 14 江戸時代、オランダ船の窓口として、長崎の湾内に人工的に造られた扇形の島を何という？

- 15 工場制手工業（マニファクチュア）が日本で発展した時代は主に何世紀？

- 16 株仲間の結成を奨励し、運上や冥加を徴収することで幕府の財政再建を目指した江戸時代の老中は誰？

- 17 マニファクチュアで、生産工程を細かく分けて別々の労働者が担当する手法を何という？

- 18 異国船打払令により、かえって関係が悪化し、開国を求める圧力を強めたのはどこ？

- 19 江戸時代前期に、俳諧を芸術性の高い文学へと高めた人物は誰？

- 20 江戸幕府がキリスト教の布教を完全に排除するために、ポルトガル船の来航を禁止した年はいつ？

- 21 18世紀後半、蒸気機関の発明により生産技術が向上し、産業革命が世界で最初に始まった国はどこ？



① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	<u>葛飾北斎</u> は、各地から富士山を眺めた景色を描いた『富嶽三十六景』で、浮世絵の中に「風景画」というジャンルを確立しました。		<u>葛飾北斎</u>	☐
2	<u>株仲間</u> は、特定の商人が商品を独占的に扱うための組合です。		<u>株仲間</u>	☐
3	<u>葛飾北斎</u> は、錦絵の多色刷り技術を駆使し、大胆な構図で風景を描きました。		<u>葛飾北斎</u>	☐
4	1637年に肥前国島原と肥後国天草の農民やキリシタンらが起こした大規模な一揆の際、カリスマ的な指導者として擁立されたのが <u>天草四郎</u> です。		<u>天草四郎</u>	☐
5	「 <u>日本橋</u> 」は、東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中の五街道が合流・出発する場所として、江戸幕府により道路網の基点に定められました。		<u>日本橋</u>	☐
6	1636年に長崎の港に築かれた扇形の人工島です。		<u>出島</u>	☐
7	<u>長崎</u> にある人工の島「出島」には、オランダ商館が置かれました。		<u>長崎</u>	☐
8	19世紀に入るとアジア方面での貿易拡大を目指し、日本近海にも盛んに姿を見せるようになりました。		<u>イギリス</u>	☐
9	都市部で排出される排泄物は、農村において「 <u>下肥</u> （しもごえ）」という貴重な肥料として買い取られました。		<u>下肥</u>	☐
10	<u>田沼意次</u> は商業に注目し、商人に特権を与える代わりに税金を徴収する「株仲間」を公認・奨励しました。		<u>田沼意次</u>	☐
11	<u>農業生産性</u> とは、農民が単位面積や一人当たりの労働力でどれだけの作物を生産できるかという効率の指標です。		<u>農業生産性</u>	☐
12	人々は価格を釣り上げた商人や米屋を不正であるとして、「 <u>打ちこわし</u> 」と呼ばれる襲撃を行いました。		<u>打ちこわし</u>	☐
13	「四つの口」とは <u>長崎</u> ・対馬・薩摩・松前のことです。		<u>長崎</u>	☐
14	長崎の湾内に扇形の人工島「 <u>出島</u> 」を造成し、オランダ商館を移しました。		<u>出島</u>	☐
15	<u>19世紀</u> に入ると、各地で商人たちが原料を供給し、農家の人々を集めて製品を大量生産させる形態が定着しました。		<u>19世紀</u>	☐
16	田沼は商人の組合である「株仲間」を公認し、営業税である運上や冥加を納めさせることで幕府の収入を増やそうとしました。		<u>田沼意次</u>	☐
17	一人の作業者が全工程を行うのではなく、作業を細かく分けて <u>分業</u> させることで、効率よく大量の製品を生産することが可能になりました。		<u>分業</u>	☐
18	日本が異国船打払令によって外国船を撃退しようとしたことは、 <u>欧米諸国</u> にとって敵対的な行為と受け取られました。		<u>欧米諸国</u>	☐
19	<u>松尾芭蕉</u> は旅をしながら多くの句を詠み、自然や人情の移ろいを繊細に表現しました。		<u>松尾芭蕉</u>	☐
20	<u>1639年</u> 、幕府は、宣教師の潜入経路であり貿易の拠点となっていたポルトガル船の来航を禁止しました。		<u>1639年</u>	☐
21	石炭を燃料とした蒸気機関の実用化が成功し、工場での大量生産が可能になったことで、社会の仕組みが根本から変わる「産業革命」が <u>イギリス</u> で始まりました。		<u>イギリス</u>	☐

言えなかった用語ノート